



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

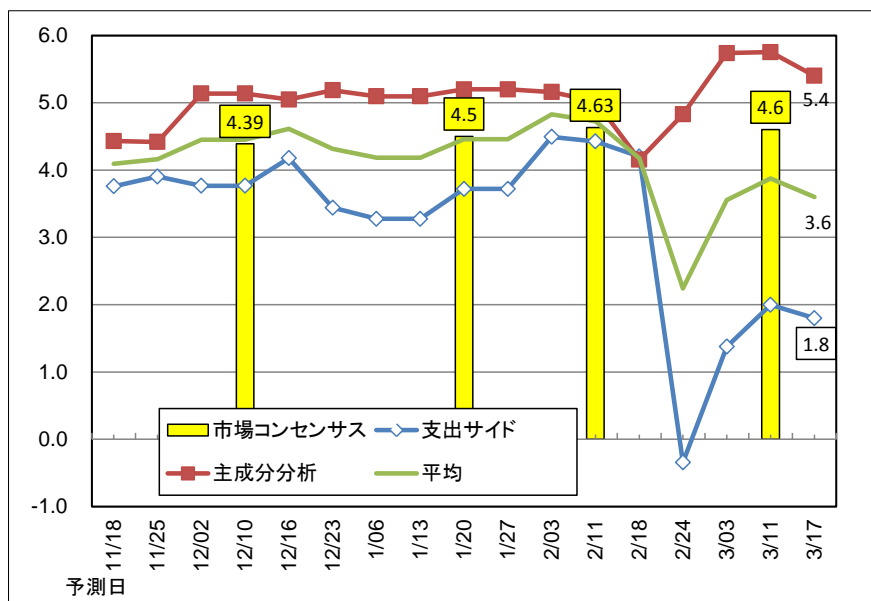
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2014年3月17日)

ポイント

- ▶今週の予測では、2月の国内企業物価指数、輸出入物価指数、1月の鉱工業指数(確報値)、民間機械受注、情報サービス業売上高及び国際収支状況が更新された。
- ▶これらのデータは主として純輸出及び輸出入デフレータの予測に影響を与える。
- ▶1月の経常収支は-1兆5,890億円と4ヵ月連続の赤字となった。季節調整値も2ヵ月ぶりの赤字となり、前月から大幅悪化した。
- ▶円安効果が鈍り、物価の上昇幅は縮小してきている。2月の輸出入物価指数はともに予測値を下回った。結果、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。
- ▶今週(3/17)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比年率+1.8%と予測。先週の予測(+2.0%)からは下方修正。内需は駆込み需要の影響で大きく拡大するが、その勢いを純輸出が押し下げるためである。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2014年1-3月期(%, 前期比年率換算)



<円安効果が薄まるにつれ、1-3月期純輸出は成長率をさらに押し下げる>

今回更新されたデータは、2月の消費動向調査、国内企業物価指数、輸出入物価指数、マネーストック、1月の鉱工業指数(確報値)、民間機械受注、情報サービス業売上高及び国際収支状況である。これらのデータは民間企業設備、民間企業在庫品増加、政府最終消費支出、純輸出及び主要デフレータ(民間企業設備、輸出入及びGDPデフレータ)の予測に影響を与える。

1月の経常収支は-1兆5,890億円と4ヵ月連続の赤字となり、赤字幅は前年同月から1兆2,406億円拡大した。第一次所得収支(これまでの所得収支)の黒字幅は拡大したが、貿易・サービス収支の赤字幅が拡大したためである。季節調整値の経常収支は-5,883億円と2ヵ月ぶりの赤字となり、前月から6,569億円悪化した。なお1月から国際収支状況の表象形式はIMF方式Version6に移行した。

円安効果が鈍り、物価の上昇幅は縮小してきている。2月は前月から円高に振れたため、輸出入物価指数はともに予測値を下回った。また1月の経常収支は前月から大幅悪化した。結果、1-3月期の実質純輸出の予測値は先週から下方修正された。

今週(3/17)の超短期モデル(支出サイド)は、1-3月期の実質GDP成長率を前期比+0.4%、同年率+1.8%と予測。先週の予測(+2.0%)から上方修正された。1-3月期は内需が駆込み需要の影響で大きく拡大(前期比+1.6%)するが、その勢いを純輸出(前期比-1.1%、先週同-0.9%)が押し下げるためである。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690